

# ニッチ or イノベーション

我が英和辞書（新英和中辞典：研究社）によると、“niche（ニッチ）”は、1 壁がんで《像・花びんなどを置く壁のくぼみ》2 適所、《独特の》地位と記されていた。

また、Web上を検索し、様々な情報を整理すると、以下の通りに収斂した。

- 1) 上記1と同様の内容
- 2) 生物学用語として「ある生物が生態系の中で占める位置や役割、生態的地位」
- 3) 橋・トンネルなどのわきに設けられる非常用の退避空間
- 4) “すきま市場”として、大企業がターゲットしないような小さな市場や、潜在的にはニーズがあるが、まだビジネスの対象として考えられていないような分野を意味する。

加えて、普通には気づきにくいところ。「ニッチ産業」「ニッチな趣味」

一般的に“ニッチ”は上記4)と解釈され、“= 隙間”とされているようである。

一方、“innovation（イノベーション）”は、同上辞書によると、革新、刷新、新機軸、新制度、新奇な事[物]と表記されていたが、Web上では、それらに加え、>新製品の開発、新生産方式の導入、新市場の開拓、新原料・新資源の開発、新組織の形成などによって、経済発展や景気循環がもたらされるとする概念。経済活動において既存のモデルから飛躍し、新規モデルへと移行することを意味します。日本語ではよく「技術革新」の同義語として使われますが、本来は新しい技術を開発するだけでなく、従来のモノ、しくみ、組織などを改革して社会的に意義のある新たな価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動全般を指すきわめて広義な概念です。<コトバンクより抜粋

しかし、一般的にはそれらに反して「狭義の技術革新」として認識され、“技術革新”が伴わない“新しいビジネスモデル”は「イノベーション」として認めずに、どちらかと言うと悪い意味の「ニッチ」として片付けられている傾向があるようだ。

上記>コトバンクより抜粋<より「社会的に意義のある新たな価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動全般を指すきわめて広義な概念」が満たされるのであれば、その手段・方法は、一概に定義されるものではないし、「既存の何かを変える」や「既存の何かと何かを組み合わせる新しい何かを創る」も本来の意味や定義からすると「イノベーション」と承認されるべきである。また、それらを前提に考えると、「全ての“イノベーション”は“ニッチ”から始まる」としても過言ではない。

そもそも「“ニッチ”か“イノベーション”か」と分類する意味は見出せないし、誰がその分類・評価をするのか・出来るのかと考えると、その業種・業態の専門家でない人達には、それらを行う資格はない。「隗より始めよ」当事者が実践すればよいだけのこと。